

# ○第 23 回近畿地方ダム等管理フォローアップ委員会

## 議事概要

開催日時：令和 8 年 2 月 9 日(月)13 時 30 分～15 時 30 分

開催場所：大手前合同庁舎 供用会議室 1

出席委員：7 名

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 決定事項</li><li>2. 審議<ol style="list-style-type: none"><li>①規約変更(案) (足羽川ダム追加)</li><li>②天ヶ瀬ダム定期報告書(案)について</li><li>③高山ダム定期報告書(案)について</li><li>④川上ダムモニタリング部会報告</li></ol></li><li>3. その他</li></ol> |
|---|

### 1. 決定事項

- ・足羽川ダムをフォローアップ委員会の対象に追加することが承認された。
- ・「天ヶ瀬ダム定期報告書(案)」、「高山ダム定期報告書(案)」は、フォローアップ委員会における意見を踏まえた修正を行い、委員長に最終確認することで了承された。

### 2. 審議の概要

#### ①規約変更(案) (足羽川ダム追加)

足羽川ダムが管理段階へ移行するにあたりフォローアップ委員会の対象ダムに追加するとともに、モニタリング部会を新たに設立することが承認された。

#### ②天ヶ瀬ダム定期報告書(案)について

事務局より「天ヶ瀬ダム定期報告書(案)」について説明がなされた後、説明資料に対して質疑応答が行われた。主な意見は以下のとおり。

・トンネル放流設備の併用でダムからの放流量が増えることになるが、ダム管理に従事する方の作業環境として、また、観光に来られる方、利用者に対して、どこまで低周波音が許容されるかを想定・予測する必要がある。合わせて建物の中での対応も考える必要がある。(田中委員)

・コンジットゲートからの放流による低周波音に対しては、昔から対策を取っており、知見が得られている。一方で、トンネルとゲートを組み合わせた実績はまだないので、データの収集には時間がかかると思う。(角委員長)

→概要版 P19～22 最大 1500 トン放流で低周波音がどうなるかという事を把握していき

い。(事務局 淀川ダム統合管理事務所)

→トンネルとゲート放流を比較して、トンネルによる放流で低周波音が下がるのはわかったので、いかにトンネル放流を使用する機会を増やすかという事と考えている。トンネル放流とコンジットゲート放流が、どのようなバランスの時にどのような影響が生じるか検討を進めていく。(事務局 淀川ダム統合管理事務所)

・安全性は確保されていると思うが、大放流時に観光客（一般利用者）を積極的に招き入れるのか。その際には用心しながら、どのように情報を流すのか、データ分析をしっかりと行いながら進めていくことが必要。(角委員長)

・喜撰山ダムでは夏場のみならず日常的に揚水発電を実施しており、水質悪化への負荷が低減されていることを理解した。(田中委員)

・天ヶ瀬ダム再開発に伴う洗堰操作変更に関して、洗堰が閉まるタイミングでの琵琶湖の上流の排水施設からの排水状況、連続測定 of SS が上昇する状況での水質、特に管理指標となる大腸菌数のデータを収集し、ゲート操作や降雨との関係性を、SS の連続的なデータと併せて整理しておくといよい。(田中委員)

→概要版 P58～74 放流時の各種データのもと、どのようなタイミングで水質が変化するかに着目しながら、関係機関と連携し監視していく。(事務局 淀川ダム統合管理事務所)

・天ヶ瀬ダムにおいてチャネルキャットフィッシュ等外来生物への対策を取る際の基準はあるのか。(堀委員)

→概要版 P119 基準はない。天ヶ瀬ダム湖では漁業が実施されていないため、他の生物への影響が確認された場合に対応する事が想定される。なお、チャネルキャットフィッシュの生態、繁殖条件などは分かっておらず調査中であるため、それらの結果を踏まえて対応を進めることが考えられる。(事務局 淀川ダム統合管理事務所)

→滋賀県では特定外来種のチャネルキャットフィッシュを駆除する方針である。これまでは漁業対応で行っていたが、現在は環境への影響を考慮して対応している。具体的な駆除目標等は定まっていないが対策には着手している状況である。(事務局 淀川ダム統合管理事務所)

・概要版 P52 斜面崩壊した箇所における過去の植生の有無がわかる写真等があれば共有していただきたい。(前迫委員)

→1979年、1987年の航空写真があり、その際は植生に覆われていた。後日メールにて共有する。(事務局 淀川ダム統合管理事務所)

・概要版 P52 斜面崩壊が再び生じた場合は、水質への影響があると考えられるが、斜面崩壊を未然に防ぐ措置等は検討しているのか。(前迫委員)

→利水への影響がある等の場合は対策の必要があるが、現時点ではそれらの心配がないため、今後も監視を継続し、必要に応じて報告する。(事務局 淀川ダム統合管理事務所)

・シカが食べない植物が繁茂してきている。シカの糞による水質悪化等、シカの影響が大きくなっている可能性があるが、植生の変化から、シカの影響について考えているか。(前迫委員)

→現時点では考えていないが、糞に含まれる大腸菌による問題もあるため、植生と動物の関係性を確認していく。(事務局 淀川ダム統合管理事務所)

### ③高山ダム定期報告書(案)について

事務局より「高山ダム定期報告書(案)」について説明がなされた後、説明資料に対して質疑応答が行われた。主な意見は以下のとおり。

・概要版 P93 の表にオオサンショウウオ等の高山ダムでは確認されていない種が記載されているがなぜか。(松井委員)

→高山ダムでは確認されていないため削除する。(事務局 木津川ダム総合管理所)

・概要版 P89 の表では増加しているヒドリガモ、オカヨシガモが、概要版 P90 では減少傾向と記載されているがなぜか。また、その2種を同じ区分として記載したのはなぜか。(前畑委員)

→鳥類は至近5ヶ年に調査を行っていないため、前回の内容のままである。前回の審議内容等を確認する。(事務局 木津川ダム総合管理所)

・概要版 P85、アレチウリの植生面積はどの程度か。(前迫委員)

→約0.3haである。(事務局 木津川ダム総合管理所)

→周囲に開放空間が広がっていると拡大も速くなる。群落として特定の場所で生育するのであれば、早期の駆除を行うと容易に駆除が行えると考えられる。(前迫委員)

→生育位置を確認し、群落としてまとまっているようであれば駆除を検討する。(事務局 木津川ダム総合管理所)

・概要版 P66 の曝気循環設備の稼働による冷水放流の軽減について、なぜ始めたのか。下流からの要望があったのか。(田中委員)

→アユの遡上に合わせ行っている。下流からの要望等はなく、機構独自の取り組みとして行っている。定量的な目標を定めて水温を調整しているわけではない。(事務局 木津川ダム総合管理所)

→この曝気設備の運用時期・深度がカビ臭物質の増加やカビ臭原因藻類の生育要因となっていないか点検をしてほしい。(田中委員)

→過去のデータを整理するとともに、今後も注視していく。(事務局 木津川ダム総合管理所)

#### ④川上ダムモニタリング部会報告について

事務局より「川上ダムモニタリング部会報告」について説明がなされた後、説明資料に対して質疑応答が行われた。主な意見は以下のとおり。

・川上ダムに限らず、モニタリング調査については、湛水開始前調査は1年であり、その年の特徴がでる可能性があることから、もう少し長期で実施する必要があると考える。(前畑委員)

→資料には記載していなかったが、これまで長期に調査を実施してきている。(事務局 木津川ダム総合管理所)

### 3. その他

○次年度、令和8年度近畿地方ダム等管理フォローアップ委員会の審議対象施設は、青蓮寺ダム、日吉ダムを予定。

以上